

Amir Tsarfati 氏 中東情勢スペシャルアップデート 2017年12月11日公開
ゴラン高原頂上カフェにて

.....

ゴラン高原より、シャローム！アミール・ツアルファティです。私と一緒にいるのは、5カ国から集まって来られた熱い人たちです。アメリカだけでなく、ヨーロッパ、南アジアからも、シンガポールからスイス、アメリカ合衆国、カナダ、…他にどちらから来られていますか？オーストラリア！他は？シンガポール！ということで、オーストラリアから、シンガポールから、スイス、カナダ、アメリカから来られている人々と一緒です。私たちは皆、安全、ご機嫌で、祝福されています。そして私たちは現在、地球上で最も問題を抱えている場所にいます。つまり、シリア。ここからほんの2マイル（3.6 km）ほどの距離です。外でライブが出来ないのは、ただ単に風が非常に強いため、風速40マイル。まだまだ強くなる可能性があり、気温が低くて外にいられないのと、風が強くて音声がかき消されるため、屋内にすることにしました。ここで、私たちはガン・ショット（銃声）の代わりにエスプレッソ・ショットを頂いています（笑）私たちが今いるのは、「コーヒー&アナン」というカフェで、コーヒーはコーヒー、そしてアナンとはヘブル語で「雲」という意味で、私たちは雲に囲まれています。元国連事務総長の名前がアナンだったのを覚えていますか？ということで、ここは、ベントル山の頂上にある素晴らしいカフェで、ありがたいことにこのオーナーが許可を下さったので、私たちはここに座って、皆さんにお話できています。

今朝は、この72時間のうちに起こった出来事についてお話しします。まず、最も新しいことについてお伝えすると、イスラエルの首相ベニヤミン・ネタニヤフは今、ブリュッセルにいます。私はそこを「ライオンの穴」と呼びますが、彼は欧州連合理事会の中心にいて、これから彼は攻撃を受けます。彼はヨーロッパの“ポリティカル・コレクトの塊たち”に、トランプによる「エルサレムがイスラエルの首都である」という宣言に、自分たちは同意しない、と言って攻撃されるのです。昨日、彼はフランスでマクロンに会っていて、大まかに言えば、彼はマクロンに次のように告げました。

「イスラエルは、フランスに対して、首都をどこに置くべきか等と言わない。あなたがたの首都として、あなたがたがパリを選んだ。それなら、我々の首都がどこであるべきか等、人がとやかく言う事ではない。それは、エルサレムだ。それは、過去3,000年間ずっとエルサレムで、イスラエル国家の首都は、過去70年間ずっとエルサレムだったのだ。それをなぜ、人が我々に対して首都の場所を指図するのだ？我々がエルサレムを首都としたのは、首相事務所や国会の所在を基準にしているだけではなく、少なくとも過去3,000年前まで遡る考古学の発見を基準にしているのだ。イスラムが生まれるはるか以前、パレスチナ人が自分たちを“パレスチナ人”だと自称するはるか以前の話だ。だから、我々の首都がどこであるかなど、誰の指図も受けない。我々は伝統を重んじ、政府の決断を重んじる。私たちはそれに対して、何も問題はない。彼らは、彼らの自国の問題に対処すれば良いのであって、我々の問題に首を突っ込むべきでない。」

それに加えて、良く考えてみてください。もし、誰かと何らかの協議を結びたいのなら、嘘ではなく、既存の事実、本物の事実が基礎にならなければなりません。そして、真実とは、少なくともイスラエル人の考えでは、エルサレムが我々の首都です。ですから、その事実を無視して、ないものとして、全く関係ないようなフリをして、我々が交渉の座に着くことはありません。イスラエルにとっては、エルサ

レムが我々の首都であるという事を、パレスチナが事実として認識しない限り、彼らが交渉の場について、何かを得る事は絶対にありません。ただ、もし我々が、我々の首都を分割して彼らに与えようと思うなら、それは我々の問題です。それは、大きな間違いになるでしょうが。ともかく、それは我々の問題であって、これが我々の首都であるという事実は否定できません。そしてネタニヤフは、フランスの大統領にも、ヨーロッパの指導者たちにも、今日、実に明確に伝えました。「自分たちの問題に取り組み、二国解決案問題を唱えるのを止めなさい。この70年間、それが何の解決ももたらさなかったのは明白なのだから。」

以上がネタニヤフの「ライオンの穴」訪問です。

しかしながら、この舞台裏では、もっと大きな事が起こっています。

トルコのエルドアン大統領が、昨日の演説の中で、イスラエル兵士が、火炎瓶を投げるなどしたパレスチナの少年を捕まえている写真を見せながら、物凄くセコい弁舌を放っていました。基本的には、彼らが爆弾を投げたか、石を投げたかしたために、我々が逮捕したのです。我々は、決して彼らを傷つけたり、殺したこともなく、ただ逮捕して拘留したのです。ところが、エルドアンは何を言ったのかというと、

「イスラエルは子どもたちを殺している」そして、

「イスラエルは、テロ国家である」

そこで、昨夜、ネタニヤフがそれに応じて言ったのは、

「クルド人の村を爆破し、自分の国のジャーナリストたちを投獄している者、国際法を無視する者、ヒズボラやイランといったテロリストを支援するような者の説教など、我々は受けない。」

このように、世界中の指導者たちの偽善が激増していて、エルドアンのような人間が、トランプによる「エルサレムはイスラエルの首都」と発表した、現在のような状況を利用してその波に乗り、まるで自分がスンニ派イスラム界の救世主、真の指導者であるかのように見せかけているのです。理解しなければならないのは、長年、トルコがカリフだった、という事です。カリフとは、ISISが創設しようとしているものですが、以前はトルコのイスタンブールにあったのです。トルコは長年、スンニ界の指導者で、何年もの間スンニ派イスラム界を導いていた、非アラブ人イスラム国家だったのです。そしてエルドアンは現在、中東の脆い現状を利用して、スルタンおよびカリフとしての地位を回復させようとしています。また、イランの拡大と戦うために、サウジと湾岸諸国、エジプト、ヨルダンがイスラエル側に付く、というシーア派對スンニ派の紛争も利用しているのです。ということで、スンニ派指導者エルドアンはイランと協力して、政治的にではなく宗教的に、スンニ派界の指導者と言う地位を回復しようとしています。アラブ界の政治家の多くが、人々を先導して、どうにかイスラエルに攻め込ませることに失敗すると、次にすることと言えば、彼らは反イスラムとか、反コーランといった宗教的な軌道に移行します。面白いことに、イスラエルの専門家が昨日、アルジャジーラによって“攻撃/インタビュー”を受けています。彼らは言いました。

「エルサレムはムスリムにとって非常に重要なのだ。」

そこで彼は彼らに

「私には、なぜなのか分からない。」

と言いました。すると彼らは

「コーランのために、だ。」

と言うのです。そこで、彼は言いました。

「それなら、君たちはコーランを読むべきだよ。コーランにはエルサレムは出て来ないから。」

ただの一度も、です。ムスリムのほとんどが、それを理解していません。過去にも、現在にも、エルサレムは出て来ません。また、もしもコーランが触れてはいけななものなら、これからも出て来ません。皆さんは理解しなければなりません。現在ここで起こっているのは、勢いをつけるために状況を利用しているということです。なんとかして、イスラエルを破滅させる口実を見つけようとしているのです。それだけです。口実を見つけ、実行する。ということで、イスラエル政府とイスラエル首相は、トルコの現在の大統領に対して、今非常に強く反発しています。皆さんにお伝えします。よく聞いてください。イスラエルとトルコは、もはや終わりです。恐らく、今週中に決別するでしょう。そしてトルコは、現在の状況を利用して、

「彼らの敵意が原因で、我々はユダヤ人国家に背を向けるのだ」

とか何とか言うでしょう。皆さん、それによって預言者エゼキエルが 38 章で伝えたことにさらに近づくのです。つまりトルコが、いかにしてイランとロシアとの同盟に接近し、イスラエルに攻撃して来るか、です。興味深いのは、多くの人に聞かれたのですが、

「トルコはスンニ派イスラム国家で、イスラエルと外交的な繋がりがあるのに、なぜイスラエルに攻撃して来るんだ？」

そこで、私がいつも言ってきたのは、

「トルコが我々に対して背を向けて、激しく敵対して来るのは時間の問題だ。」

それがまさに今、我々の目の前で起こっています。現在、私たちは物凄い時代に生きているのです。

もう一つ、知っておくべき事は、現在パレスチナは

「これは宣戦布告だ！我々は戦う！」

と言っています。ハマスは、

「これによって、全地域で再び戦争が起こる！」

と言っています。

面白いと思いませんか？我々がつい昨日発見したのは、ハマスが掘っていた——我々はハマスの仕業であることを知っています——最長のテロトンネルです。彼らが掘っていることは、我々はこの数週間ずっと見張っていました。彼らは、そんな事は知りもしませんが。そのトンネルが、まだガザの彼らの領域にある時点から、我々はそれを探知していました。しかし、彼らが彼らの領域で何をしようと、私たちに何も出来ません。しかし、地下で彼らが境界線を越え、続けて 100m か 200m ほどイスラエル領内に入って来たとき、我々は行動に出ます。次に、これはイスラエルにとってもはや秘密でも何でもありません。イスラエルは、ガザから向かって来るテロトンネル問題に二つの方法で対処しています。一つは外側でなく、地下に壁を建てています。我々は障害物を地下に掘り、信じられないようなことをしているのです。他の人は、アメリカとメキシコの間の壁について話をしていますが、考えてみてください。これは目に見える壁ではなく、地下にあって目に見えない壁です。ですから、どのトンネルでも、いずれ巨大なコンクリートの壁にぶち当たって貫通出来ません。そして、彼らがそれに触れると、我々はそれを探知します。それが現在進められていることですが、彼らが完成するまでの間、パレスチナは我々

がまだ手を付けていない地域を掘りつづけています。そこで我々は、新しいシステムを開発しました。それはイスラエルの科学者によって開発されたもので、地下での動きを探知し、直ちにその場所を見つけ、シャフトを掘り、そのシャフトへ無人車両を送り込み、それがトンネルだと確認するやいなや、我々は二通りの方法で対処します。

① 爆破して、彼らを怒らせる。

② 中で別の事を行なって、彼らを怒らせる。

一ヶ月前、我々はトンネルを爆破しました。そして、中で活動中だったテロリストを 15 人ほど殺害しました。そして彼らは怒っています。今回は昨日、別の方法を取りました。その方法は暴露出来ませんが、彼らはまたそれで怒っています。何故こんなことを話すのかと言うと、彼らは

「エルサレム宣言のために、我々はイスラエルを攻撃しているのだ！」

と言っていますが、彼らは一年以上このトンネルを掘っていますから、エルサレム宣言とは一切関係がありません。彼らがこれを掘り始めたころは、トランプはまだ大統領でもなかったのです。その事から、彼らの真の目的が分かるでしょう。彼らが本当に考えていることが、それによって分かるでしょう。彼らは、我々と平和を築くためにそこにいるのではありません。聖書には、詩篇 120 篇にこうあります。

6 私は、久しく、平和を憎む者とともに住んでいた。

7 私は平和を——、私が話すと、彼らは戦いを望むのだ。

(詩篇 120:6~7)

聖書にはそう書いてあるのです。これは彼らの事を物語っていて、地球のあの地域のパレスチナの存在に見事に当てはまります。

ということで、興味深いのが、一方で人々は平和だ、和平プロセスだと言いながら、他方では平和ではなく、戦争に向けてアクセル全開です。彼らは自分たちの子どもたちに、

「イスラエルには、存在する権利が全くない」

と教育してきて、未だに彼らは子どもたちにそう教え、これからも子どもたちに教えて行くでしょう。ですから、我々はただ

「エルサレムが首都であると宣言して、とりあえず前に進もうじゃないか。彼らが座って話をしたいなら、座って話し合えば良い、」

と思っています。しかし、見て見ないふりをして、

「エルサレムがどこなのか分からない」

と言う事は出来ません。皆、イスラエルを訪れる時は、エルサレムにある首相事務所や、我々の国会、我々の最高裁に招待するのですから。それらは全て、イスラエルの首都エルサレムにあるのです。

ということで、パレスチナの動きが一切無駄であることが分かりましたね。彼らはとても気分を害しているのです。自分たちは新たな混乱、インティファダを命じたのに、何も反応がなかったのですから。確かに、いくつかの事件はありましたよ。そこで石が投げられたり、あちらで刺されたり。しかし、彼らは少なくともこの 50 年間、約束してきたのです。

「エルサレムを首都だと宣言するなら、中東は火の海になる。」

ところが、どうなったと思いますか？

中東が既に火の海だったために、我々はエルサレムが首都である、と宣言できたのです。そして、何も起こりませんでした。本当に、何も起こらなかったのです。いくつかの出来事、誰かがアムステルダムで石を投げたり、誰かがユダヤ人の学校を攻撃したり、という事はありませんでしたが、それらは物凄く孤立した事件でした。それが、大きな出来事に発展するかどうかは、我々には分かりませんが、一つ、私たちに分かっているのは、これはここからほんの2マイル(3.6 km)離れたところで実際に行われていることに対するカモフラージュだという事を忘れてはなりません。あちらにはロシア、イラン、トルコがおり、彼らは全く別の事へ備えをしています。またそれは、エルサレムとは一切関係がないのです。

しかし、面白いと思いませんか？数日前に、私はそれについて書いたと思いますが、ロシアとトルコとイランは「シリアの問題」のために、この地域に入って来たのです。つまり、全てシリアのためだったのです。ところが、この一週間ほどの間に、何が起きたと思いますか？今では全てが変わって、今や皆がエルサレムに目をつけているのです。これで、何が彼らをここに引きずり込むのかが見えて来ました。書面上ではシリアでしょうが、この瞬間から、彼らはエルサレム問題に取り組むのです。我々はそれを全面的に警戒しています。イスラエルの戦闘機は、24時間体制でこの全地域を緊急発進していますし、昨日はネタニヤフがマクロンに次のように伝えました。

「イランが、シリアに軍事的位置を確立することを、我々は許さない。彼らは、陸軍、空軍、それと海軍を持ち込もうとしているが、我々はそれを認めない。我々は行動によって自分たちの言葉を証明する。」
もう一つ、ネタニヤフは

「我々は、彼らが物理的にここにいる事を認めないだけでなく、ヒズボラのロケットをさらに精巧なものにするための、彼らの働きも認めない。」

と言っています。彼らが現在行なっているのは、ロケットは通常、飛んで行って何かに命中しますが、彼らは、それに精巧な誘導システムを搭載し、ロケットが、彼らの狙う特定の建物に命中するように造っているのです。これを我々は「流れを変える武器」と呼び、ヒズボラがそれを入手することを認めません。ということで、最近の二つの空爆は、この特定のものを狙って行われたものです。我々は、イランの軍駐留を攻撃したのではなく、ヒズボラのロケットを改造し、さらに高性能にしようとする、イランの働きを攻撃したのです。ですから、我々はレバノンで活動しているのではなく、シリアで活動しており、我々がこれを行う目的はただ一つ、我々を破滅させようとする彼らの働きを止める事、それだけです。イスラエルにダマスカスは必要ありません。我々に、ダマスカスは必要なく、我々にはベイルートも必要ありません。イラクの領土も、イランの領土も、サウジの領土も、我々には一切必要ありません。ただ、我々を放っておいてくれれば良いのです。もし、我々に構って来るのなら、我々は相手しません。我々は、いかなる国であろうと、イスラエルの破滅を誓う国々の軍駐留は、世界のどこであれ、認めません。彼らが、この特定の地域に軍事的に確立することは、我々は絶対に許しません。私たちが理解しておくべきなのは、エルサレムが首都であるという宣言が、狂った行動であるかのように、世界中が見せかけようとしていることです。言っておきますが、中東は既に火の海でした。エルサレムに関わらず、中東は既に火の海になっており、そもそも、エルサレムは問題でも何でもありません。今や、皆が全ての問題や原因を、エルサレム問題のせいにしてしていますが、そうではありません。トランプ側が、もっと早くではなく、今、エルサレムがイスラエルの首都であると宣言したのは、非常に聡明だったと私は思います。なぜかと言えば、現在はサウジとシーア派、他のサウジの味方国との分裂があまりにも深く、このような決断に対して、イスラムの統一性を一切示すことが出来ないのですから。

もう一つ、皆さんにお伝えしたいのは、パレスチナが交渉の場に着くとすれば、長引かせれば長引かせるほど彼らは負ける、ということを彼らが理解することです。皆さんはご存知かどうか分かりませんが、1947年に始まった時、彼らには国家が提示されたのです。イスラエルにはエルサレムもなく、ガリラヤの大部分もなく、イスラエルの大部分は砂漠でした。それでも1947年、ユダヤ人は国連の分割案に賛成し、反対したのは、アラブ人の方です。イスラエルが生まれる前から、アラブ界は二国解決策を全く求めていないのです。彼らにとっては、全部か、ゼロか。それが今日に至るまで、ガイドラインです。

皆さんに保証します。今、ここで私がパレスチナと向き合って、

「エルサレムの半分と西岸地域全部、それとガザ地区を彼らに与える」

と言っても、彼らとの平和は絶対にありません。

何故でしょう？

それは、もし彼らが協議に合意すると、対立を終わらせてしまうからです。

ということは、彼らは、ユダヤ人国家が存在すると言う事実と共存しなければならないのです。彼らの求めるものの全てが、彼らのものではない、という事実を認めなければならないのです。それは、彼らには想像すら出来ません。それだけでなく、彼らにとってそれは、宗教的な軌道に行って、

「ムハンマドが間違いであったのだろう」

という事になるのです。彼は、かつてイスラムが支配していた地は、全部イスラムの手に戻らなければならない、と言ったのです。これが、彼らの宗教的なマントラです。だから、かつてムスリムが支配していた土地の一部が、もはやムスリムのものではない、などという協議に、ムスリムの指導者が署名するなんてあり得ないのです。

分かりますか？

それは彼らにとっては、宗教的に辻褄が合わないことなのです。私たちがいくらお金をつぎ込んで、話し合おうとしても、どれだけ頑張っても、それは絶対に成立しないのです。ですから、もしそれが絶対に成立しないのなら、とりあえず現実と直面して、前進しようじゃないか、と。聖書のどこを探しても、アラブ人という土地の相続者とイスラエルが和平を結ぶ、なんてことは一切書いてありません。そんなものは、ありませんから。

私たちに分かっているのは、イスラエル国家がこの10年の間に信じられないほどの発展をしているという事が、彼らが交渉の座に着くのではなく、攻撃する理由になるのだろうということです。預言者エゼキエルは36章で、一般的に、神がユダヤ人をその地に戻すと約束されたことを書いています。しかしその前に、神はイスラエルの山や谷に繁栄を宣言されます。36章で、彼はこう告げています。

8 だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが“近い”からだ。

(エゼキエル書 36:8 “” は訳者)

そして、エゼキエル 37 章では、いかにしてイスラエルが、ホロコーストの灰の中から救い出されるのかについて告げています。エゼキエルは、干からびた骨でいっぱい谷間に連れて行かれ、「これは何ですか？」と神に尋ねます。すると神は言われました。

11 …これらの骨は、イスラエルの全家である。ああ、彼らは、『私たちの骨は干からび、望みは消え失せ、私たちは断ち切られる』と言っている。

(エゼキエル 37:11)

そして、

13 わたしの民よ。“わたし”が(中略)あなたがたを墓から引き上げるとき…

(エゼキエル 37:13 “”は訳者)

14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。

“わたし”はあなたがたを…

…どこへ?他の誰かの地ではなく…

あなたがたの地に住みつかせる。

(エゼキエル 37:14a “”は訳者)

皆さん、理解しなければなりません。神がそれをされた時、アラブ界だけでなく、全世界を揺るがしたのです。我々がここに来たとき、誰も助けなかったのですから。世界で起こっていることとは違って、人々がヨーロッパに移民するのを助けている様には、誰も我々の事を助けませんでした。私たちは、自分たちの宗教のために、自分たちの同族によって殺されたのではありません。私たちは、啓発されたヨーロッパ人によって殺されたのです。文化的、道徳的にも、非常に発達しているはずの人たちです。それだけでなく、私たちは当時の最も発達した近代的な国、ドイツによって、惨殺され、大量殺戮され、全滅されたのです。分かりますか?我々はそのような中を生き残り、自分たちの地に戻って来たのです。それは、誰かが我々に何かを与えたからではなく、ただ神のおかげです。そして、主は御言葉の中で語られました。

14 …このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。——
主の御告げ——」

(エゼキエル 37:14b)

別の言い方をすれば、ユダヤ人のイスラエル帰還はただの偶然ではなく、世界がそういう流れだったからでもなく、これは神の御業であることを皆が知るようにされたのです。神によって成し遂げられ、神によって取り仕切られ、2800年前にエゼキエルによって預言され、神が約束されたのだ、ということ。

そして、エゼキエル 36、37 章を我々が目撃した後、38 章に入ると、イスラエルは自分の地に戻り、安全、安心で、果てしなく繁栄しています。たまたま、

「エゼキエルには『城壁のない所』と書いているじゃないか」

と言われますが、皆さんにお聞きします。

皆さんがここに来てからの数日間、壁に囲まれた町々を目にされましたか?

いいえ。壁に囲まれた町々はここには存在しません。イスラエルの中で、壁がある町はどこも 500 年前とか、1200 年前の旧市街の古い壁であって、イスラエルの町々を取り囲む壁など、もうありません。ここは安全です。私は、家の子どもを子どもたちだけで外で遊ばせることができますよ。皆さん、出来ま

すか？ほとんどの国で、それが出来ないでしょう。言っておきますが、私たちは安全だと感じ、安心してます。私がアメリカやアジアやヨーロッパへ行くとき、私の家族は私のために祈っていますよ。その時こそ、危険だと感じるからです。

しかし、一つ皆さんにお伝えしておきます。ユダヤ人は世界中全ての場所で迫害されます。そして、我々にとって最も安全な場所はイスラエル。これは、事実です。もう一つ、皆さんに保証しておきますと、終わりに近づけば近づくほど、それは激しくなっていく。ということで、エゼキエルは「イスラエルが完全に弱い状況になる」とは語っておらず、逆です。イスラエルは繁栄し、安全、安心で、大首長であるマゴグの、顎にかけられる鉤について言えば、——いつも言いますが、——これはイスラエルが発見した天然ガスと石油で、そのためにロシアの政権がこの地域を牛耳るのでしょう。だから皆さん全員にお伝えします。私たちはゴール寸前です。神は、私たちの目の前で国々を分けておられ、エゼキエルが預言したことは、皆さんの机の上にある今日の新聞よりも、はるかにずっと正確です。そこで、あなたはどちらを信頼しますか？あなたが従い、信じるものとは何ですか？新聞は毎日アップデートされなければなりません。前日のものと全く同じ新聞なんてありません。彼らが“新”聞と自称するのは、全てが日々新しいからですが、私たちの聖書は、昨日も今日も永遠に同じであって、新聞ではありません。新聞にはなり得ません。これが3000年前、3500年前に、私たちに与えられたということ自体が、すでに良い知らせで、それが今日まで有効であり、今日ではこれまでのどの時代よりも、もっと正確なのです。

さらにワクワクするのは、世界で起こる事と同時に預言者が伝えたこと、預言者たちだけでなく、イエスご自身もまた、私たち、神の民に与えてくれた、素晴らしい約束です。これらのことが起こり始めたなら、私たちは頭を上を上げなければなりません。私たちの贖いが近づいているからです。教会の携挙が、すぐそこまで来ています。私はプロフィット（預言者）ではありません。私は——「ノン・プロフィット団体」（NPO：非営利団体）の者ですから（笑）。それでも、私には分かります。預言者になる必要はありません。事実、ここではっきりと言っておきますよ。預言者になろうなんてしないでください。そのための勉強なんてしないでください。預言者のための学校なんてありませんからね。神は、2800年前、私たちに預言者を与えてくださったのです。また、聖書には第二ペテロ 1: 21 にこうあります。

21 …預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。

（第二ペテロ 1:21）

つまり、2800年前に神が人を通して語られたことを、私たちは握りしめていれば、それで十分なのです。それから、聖書にはこうあります。

23 …動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。

（ヘブル 10:23b）

そして、私たちが持っている希望とは、ここは私たちのための場所ではなく、私たちはすぐにここを出て行く、ということです。聖書は、「動揺せずにその希望をしっかりと告白しよう」とあり、さらに聖書

は、ヘブル 10 章でこう告げています。この終わりの時、私たちはしっかりと神の約束を握りしめなければならない。それは、約束された方が…

23 …真実な方ですから…

(ヘブル 10:23a)

約束された方が真実な方なのです。神の真実さは、歴史を通して、イスラエルの中にはっきりと示されています。見てください。私たちは故国に帰還し、私はユダ族の出身です。ここはイスラエルの地であり、あらゆる敵にも関わらず、私たちを全滅し、破滅させ、我々の存在を終わらせようとするあらゆる試みにもかかわらず、私たちイスラエル人は、ここにしっかりと生きており、ただ生きているだけでなく、私たちは世界の中でも問題だらけのこの場所の真ただ中で、世界のこの地域で唯一、経済が縮小せずに成長している国です。GDP（国民総生産量）が減らずに増大している国は、我々だけです。発明、技術が発達しているのは、唯一我々だけです。メルセデスベンツはここイスラエルに一月前にやって来て、研究開発センターを開設しました。アップル、グーグル、サムスン、その他、大企業の全てです。インテル、マイクロソフト、彼らも皆、ここイスラエルにいます。それは、彼らがある事を知っているからです。このイスラエルという凄いものを誰も説明すら出来ない。私たちは、それに関して責任を負ったり、賞賛を受けたりはしません。これは、主ご自身が言われたように、主がただ語るだけでなく、さらに成し遂げられたためです。そして、神の御業は 80%とか、60%とか、そんなものではありません。神が何かをされる時は、100%です。

ということで、皆さん全員に、挑戦…だけでなく、世界中の皆さんに励ましたいと思います。私たちはきっと、世界中どこにいても、困難にも直面するでしょう。(ツアー客に振り向いて) オーストラリアの人は先週あたりに、そこで起こった事をご存知ですよ？あなたの国で、いくつかの法律が可決されましたね？合ってますよね？何の話か、分かりますよね？アメリカでは現在最高裁で、皆さんの信仰の自由に大きく関わる裁判が行われていますね？ミネソタだったと思いますが、ケーキ屋さんが、自分の宗教的信念を貫いて、砂糖で作った、二人の男がキスしている飾りを、ウェディングケーキの上に置くことを拒絶しました。彼は、ウェディングケーキを焼く事には問題ないが、自分の信仰に反する物を作れ等とは、言うな、と。それが現在、アメリカで攻撃を受けています。ヨーロッパではポリティカル・コレクトネスに今、ヨーロッパ人が発狂していて、彼らはそれを退け始めています。その後退によって出来上がった空洞を、まもなくヨーロッパから登場する指導者が利用するのだと、私は思います。そして、ムスリム界全体で、ある種の目覚めが起こっています。彼らが一致団結して、世界を乗っ取る、と言う幻からの目覚めです。現在、ムスリム界では、イスラエル以上に自分たちの事を互いに憎悪し合っている、ということを彼らは理解しているのです。これがまさに、現在起こっていることです。このように、全世界が試練の中にあるのです。中東の中に試練があり、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカの中にも試練があります。また、これらはどんどん激しくなることを、私たちは理解しておかなければなりません。そして、私たちの希望は、物事が沸点に達しつつある時でも、私たちはただ頭を上を上げるのです。私たちの贖いが近づいていますから。

ということで、ゴラン高原の頂上より、シリア国境より 2 マイル (3.6 km) の場所から、皆さんのことを

励まします。そこに、国連の駐屯所があります。あれを軍駐屯所と呼んで良いのかどうか、分かりませんが。とにかく、きっとあそこでは、ラテが大人気でしょう。皆さんに一つ言えることは、神を信頼しましょう。主に信頼しましょう。聖書は、今は困難な時代であり、私たちは二つのことをしなければならない、と告げています。

- ① 信者として、集まる事を止めてはならない。つまり、今は教会を離れる時ではなく、教会に行く時です。今こそ、聖徒と交わり合う時です。
- ② 今は私たちが沈黙する時ではありません。世に福音を宣べ伝える時です。世は、もったもった鬱になり、どんどん…医療的に言えば、死んでいきます。ですから、今こそ、良い知らせだけでなく、聖書が「いのちのことば」と呼ぶものを、世に与えなければなりません。死んだ世は、唯一、私が「ゴスペル」（福音の薬）と呼ぶものによってしか生き返ることは出来ません。私たちの仕事は、これを無理やり彼らの口に押し込むことではなく、彼らに渡すことです。彼らが飲もうと飲まなかろうと、それは彼らの問題であって、私たちの仕事は、それを彼らに与える事です。私たちは皆、ビンいっぱいに入ったゴスペルを与えられています。それが私たちを救い、それは彼らを救う事も出来る、誰でも救えるのです。誰でも、主の御名を呼び求める者は、救われるのです。

聖書には、こうあります。

16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。

(ヨハネ 3:16a)

ここには、神が、実に、教会を愛された、とは書かれていません。神は、実に、クリスチャンを愛された、とも書いていないのです。

16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは、御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(ヨハネ 3:16)

あなたがすべきことは、ただ神を信じ、信頼する事です。そうすれば滅びることなく、永遠のいのちを持つことが出来るのです。

この真理を持って、シリア国境の頂上からのライブ配信を終えたいと思います。外に出て、爆発音を聞くのが楽しみですね？後で、爆発音を聞きに行きますが、風が物凄く強くて、何も聞こえないかも知れません。出来るかどうか分かりませんが、カメラを動かして、反対側を映せるかどうか、やってみましょう。(窓の外の景色)はい。カメラの向きを変えたので、外がご覧いただけますね。イスラエルの駐屯所、シェルターです。それから、ずっと向こうに、クネイトラと呼ばれるシリアの町が見えます。これで、私たちが確かにシリア国境にいることがお分かり頂けるでしょう。こちらには、コーヒーを飲んで温まっている兵士の皆さんが私たちと一緒にです。

皆さん、お別れのごあいさつをしてください。(皆、手を振ってバイバイしている)

では、ゴラン高原の頂上より、We love you!

私たちにお付き合いくださってありがとうございます。

2017.12.11 中東情勢スペシャルアップデート beholdisrael.org

アメリカは深夜ですね。他の場所では、楽しんでいただけたでしょう(書記注:日本時間では12/11の16:30～)。

ありがとうございます。God bless you!

ゴラン高原より、シャローム!

さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>